20041

CoronaryCTAにおける心電同期フラッシュスキャンの臨床における検討

[1]亀田総合病院

吉田　弘樹[1]

【目的】当施設では被ばく低減撮影フラッシュスキャンの搭載された６４列ＣＴが導入された。このフラッシュスキャンは被ばく低減の撮影法として、ハイヘリカルピッチ、間欠曝射を用い設定した心位相以外Ｘ線を出さない撮影法が行われ大幅に被ばく低減に繋がっている。又、当施設ではHR６５以上の被験者にはβ遮断薬（セロケン）を積極的に使用している為、フラッシュスキャンの撮影の使用頻度は高い。そこで今回、フラッシュスキャンで撮影した臨床画像を評価したので報告する。【使用機器】ＣＴ装置　Aquilion６４（東芝メディカル社製）ワークステーションZIO　STASTION　SYSTEM　1000【対象】フラッシュスキャン（HP１２以上）症例１００例平均年齢59.8±9.86歳　平均体重70.2±13.9kg　HP15.7±1.2【方法】臨床データーを用い視覚評価（放射線技師２名　循環器内科１名）を５段階評価で行った。又撮影時間　DLP等について分析した。【結果】撮影平均心拍57.6±1.07bpm。平均スコア4.5点で臨床的に有効な画像が提供できた。又撮影時間も7.01±0.9secと通常の撮影に比べると平均で１秒近く短かった。DLPは638.2±129mGy・cmと４０％被ばく低減に繋がった。【結語】心電同期フラッシュスキャンヘリカル撮影においては、撮影時間も短く、被ばく低減に繋がり、臨床的に有効な撮影方法であると考える。又撮影時間は短い為撮影時間の長いCABG後撮影も心拍が安定していれば臨床的に有効な画像が得られると思う。又撮影法を十分に理解し評価の高い画像を提供していこうと思った。